

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language)		児童教育学科 幼児教育学専攻	2年次	前期 後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
演習	2	必修	中司 志磨子	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

〇コアカリキュラム：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

（１）各領域のねらい及び内容

一般目標：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。

到達目標：１）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。

２）当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。

３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。

４）領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

（２）保育内容の指導方法と保育の構想

一般目標：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：１）幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。

２）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

３）指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

４）模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。

５）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【全体目標及び概要】

幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。

言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。

言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に付ける。

【一般目標及び到達目標】

目標対応

（１）幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いをふまえた指導の考え方を理解している。

１）領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のあり方、評価を説明できる。

(1)-1)、3)

２）幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる

(1)-2)

３）領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。

(1)-4)

（２）言葉の重要性を理解し、幼児の言葉の獲得に資する環境設定や情報機器・児童文化財の活用について理解している。

１）言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。

(2)-1)、2)

２）言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。

(2)-1)、2)

３）言葉を育てる児童文化財について理解し、それらを利用できる。

(2)-2)

（３）実社会の現実をふまえ保護者や学校・地域社会との連携を深めるための諸方策を理解している。

１）実社会における言葉に関する課題について説明できる。

(2)-3)

２）領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。

(1)-4)、(2)-3)

３）地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。

(2)-3)

（４）グローバル化時代における言葉の育ちに関わる諸問題を理解し、指導・援助のあり方を説明できる。

１）言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。

(2)-3)、4)、5)

２）母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説明できる。

(2)-3)、4)、5)

回数	保育内容の指導法（言葉） 授業内容【前期】 【中司志磨子】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
1	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて理解する。	(1) - 1)	(1)-1)、3)
2	幼稚園教諭・保育教諭の役割についてグループで話し合い発表する。	(1) - 1) (3) - 3)	(1)-1)、3) (2)-3)
3	幼児をとりまく家庭や社会の言葉に関わる現状を映像資料をもとに理解し、子どもの言語環境に関わる課題をグループ討議し発表する。	(3) - 1) (3) - 3)	(1)-1)、3) (2)-3)
4	言葉を獲得することの意義についてグループで話し合い、ICT を活用して発表する。言葉を豊かにする絵本・紙芝居等を保育場面でどうかすかを考える。	(2) - 1)	(2)-1)、2)
5	保育場面の映像をもとに言葉が社会的獲得物であることを理解し、幼稚園教諭・保育教諭の役割について改めて考えを深める。	(2) - 1)	(2)-1)、2)
6	言葉の機能について学び、幼稚園教諭・保育教諭のあるべき対応を、映像資料をもとに考え、適切な言葉かけについて発表する。	(2) - 1)	(2)-1)、2)
7	保育場面の映像から「言葉により自我が形成される」ことを理解し、幼児教育に携わる者としての向上心を育む。	(2) - 1)	(2)-1)、2)
8	誕生とともに言葉獲得のコミュニケーションが始まっていることを映像資料をもとに理解し、この時期の養育のありかたをグループで話し合い ICT を活用して発表する。	(1) - 2) (2) - 1) 2)	(1)-2) (2)-1)、2)
9	育児語の特徴について理解し、発声法を練習する。	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-1)、2)
10	領域「言語」から「言葉」への変遷要因を学び、基本的な関わり方を理解する。	(1) - 1)	(1)-1)、2)
11	保育場面の映像を活用し保育の現場で子どもへの対応に悩む諸問題を出し合い、その対応をグループで話し合い ICT を活用し発表する。	(2) - 2)	(2)-1)、2)
12	言葉を育てるシステムの現状について、グループで話し合い ICT を活用して発表する。	(3) - 1) - 2) - 3)	(1)-4) (2)-3)
13	領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	(1) - 3)	(1)-4)
14	総合的な活動での領域「言葉」の役割、必要な視点を理解する。	(1) - 3)	(1)-4)
15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解し、幼児教育のありかたをグループで話し合い、ICT を活用して発表する。	(3) - 2)	(1)-4) (2)-3)
定期試験 実施する			

回数	保育内容の指導法（言葉） 授業内容【後期】 【中司志磨子】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
16	乳児と養育者の共鳴関係に映像資料を活用して理解し、愛着の形成を基盤とする前言語期のコミュニケーションの重要性を学ぶ。	(1) - 2)	(1)-2)
17	三項関係について理解し、乳児期の子どもとのコミュニケーションのありかたを発表する。	(1) - 2)	(1)-2)
18	保育場面のビデオ映像をもとに幼児の言葉の発達段階を理解し、各段階における言葉による伝え合いをどう援助するかを話し合う。	(1) - 2)	(1)-2)
19	幼児語・幼児音の特徴を理解し、対応のありかたを発表する。	(1) - 2)	(1)-2)
20	保育場面のビデオ映像をもとに文字への関心を高め、文字で伝える楽しさをどのように経験するかを話し合う。	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-1)、2)
21	幼児の言葉かけの基本について理解し、想定場面での言葉かけを上演する。	(1) - 2)	(1)-2)
22	幼稚園教諭・保育教諭の陥りがちな言葉かけについて事例をもとに考え、子どもの心を支える言葉掛けの実践の模擬保育を行なう。	(1) - 2)	(1)-2)
23	子どもの言葉を豊かにするために絵本や紙芝居をもとにしたお話の映像等を視聴し、ICT 機器を活用した保育構想のアイデアを考える。	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-1)、2)
24	言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びの実践を行う。絵本を使っての「しりとり遊び」の指導計画を作成し、模擬保育を行なう。	(1) - 2) (2) - 3)	(1)-2) (2)-2)
25	言葉を育てる様々な児童文化財の特徴を理解する。パネルシアターやペープサートを製作し、保育場面での活かし方を考える。	(2) - 3)	(2)-2)

回数	保育内容の指導法（言葉） 授業内容【後期】 【中司志磨子】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応
26	保育場面のビデオ映像をもとに絵本について発達段階ごとの幼児の認識の仕方を理解し、絵本からの発展遊びを計画し、模擬保育を行なう（ビデオ録画）。	(2) - 3)	(2)-2)
27	科学絵本「たんぼぼ」を読み、豊かな言葉と感性を育む絵本の役割を理解し、自分の体験事例をもとにデジタル絵本のアイデアを出す。	(2) - 3)	(2)-2)
28	地域文化の大切さを理解し、地域で仲間と遊ぶなかで培われる力について話し合い、ICTを活用して発表する。	(3) - 1) - 3)	(2)-3)
29	ICTを活用して言葉に関わる障害の諸相を理解し、実習での体験もふまえ適切な指導・対応のありかたを話し合う。	(4) - 1)	(2)-3)、4)、5)
30	ICTを活用して母国語が日本語でない幼児や保護者の心情や実態を理解し、適切な指導対応を話し合う。	(4) - 2)	(2)-3)、4)、5)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業への取り組み・グループでの話し合いへの参加（関心・意欲・態度）30% レポート（思考力・判断力・表現力）30% 定期試験（知識・理解）40%		
テキストおよび参考文献	テキスト：『保育内容「言葉」』 小田 豊・芦田 宏 編著 北大路書房 『保育内容の指導法（言葉）』山口短期大学 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）		
メッセージなど	幼児の言葉獲得過程と養育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験から共に考えていきましょう。		

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2 幼児の心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	できない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3)-1 実社会における言葉に関する課題について説明できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度)	15%
(3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-3 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度)	5%
(4)-1 言葉に関わる障害の諸相を理解し、障害のある幼児や保護者への適切な指導・援助が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度)	5%
(4)-2 母語が日本語でない幼児や保護者の抱える課題や心情を理解し、適切な指導・援助が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	授業への取組・グループ討議への参加 (関心・意欲・態度)	5%